

名古屋テレビ塔 大澤 和宏社長

MIRAI TWOERのテレビ塔にリボーン
知恵と工夫で有形文化財を改修
「ニュー名古屋・栄の顔にしたい」

日本初の電波塔として1949年誕生した、名古屋の復興のシンボルでもあった名古屋テレビ塔が18日、全面改修して新たにホテル・レストランなども備えたMIRAI TWOERとして生まれ変わった。足元の久屋大通公園も「レイヤード久屋大通パーク」として同時にリボーン、一帯はニュー名古屋・栄の顔としてシンボル発信！名古屋テレビ塔社長、大澤和宏氏に話を聞いた。

大澤 和宏（おおさわ かずひろ）
1939年9月、愛知県出身。NHK名古屋放送局副局長を経て97年、定年退職。同年7月、株式会社NHKアイテック名古屋支社長に就任。2003年6月、同社退社後、名古屋テレビ塔社長に就任、現在に至る。専門分野、無線工学（電波技術）。趣味、読書・写真。

——9月18日グランドオープンを機に新しいロゴやキャラクターも生まれました。

大澤 MIRAI TWOERとして技術と知恵、歴史を刻む美しいプロポーションを立体的にデザインしたロゴと、常に上向き志向の架空の動物をタワーデザインした新キャラクター「ウエミーヤ」です。キャラクターはグッズ販売などを通じて皆さんに愛されてもらいたい。

——改修工事は大変でしたか？

大澤 昨年1月に着工、今年9月に竣工、工期として1年8か月かかりました。最も大変だったのは免震整備でした。テレビ塔は2005年、貴重な文化財として国の有形文化財に登録されましたので、鉄塔の姿を変えないでどのように行うかです。塔体を支える4隅の脚部を地下5m掘ってコンクリート基礎をすべ

て壊し、免震装置を設置しました。4隅の脚部はタイブームという鉄鋼により正方形で結ばれ、これは新しく開発した世界初の工法を採用しました。工事の途中、コンクリート基礎をすべて壊した段階では工事用ジャッキだけで塔体を支え、基礎がなくなりテレビ塔が宙に浮いた状態となり、話題になりました。もともとテレビ塔の建設時、地下鉄やセントラルパークが直下に出来る想定で、基礎は浅く、地上部分に4つのコンクリートアーチで塔体を支えるダルマ構造で建設されました。このように特殊な基礎構造のテレビ塔の免震整備は新しい技術開発があって実現しました。また、低層階建屋内部とエレベーターはすべて壊して全体改修となりました。特に留意したのは戦後の日本を代表する貴重な文化財という評価が高いことから文

化財の価値を残した整備に努めました。塔内には開業時の遺産価値の高い建造物の一部などを残し、全国初の集約電波鉄塔及び観光タワーの博物館的機能を維持しました。

——新テレビ塔はどう生まれ変わりましたか？

大澤 4、5階が世界中探しても例のないタワーの中の特異なホテルになります。旅行で思い出に残るのはホテルですよね。久屋大通公園の中のホテルなので景観は良好。5階のスイートルーム2室、4階13室の計15室のこぢんまりとした観光ホテルですが、すべて南か北に面していて緑を楽しめます。タワーホテルも例がなく、個性的で名駅との差別化にもなります。開業は10月1日です。

また、地上90mの展望台は新設置の映像装置で360度プロジェクションマッピングを施しガラスを張った天井に眼下の街の光景が映り、前方の公園と交差して異空間の映像が出現。音響もコンサートホール並みの高音質なので迫力が楽しめます。3階は新キャラクター「ウエミーヤ」をあしらったグッズや名古屋名産などのショップとカフェ。隣は名古屋市がベンチャー企業のスタートアップ拠点に活用するスペース。さらにその奥はベンチャー企業が作業や打ち合わせなどに使う会員制のシェアオフィスです。20世紀はモノづくり中心でしたが、21世紀はAIなどを活かし、いかに新しいコンテンツをつくるかの時代です。

栄地区周辺にVRなどソフトウェアの会社も多く、ぜひ活用してもらいたい。そして2階はブランケット、結婚式や宴会も可能なレストラン。ホテルと同じ会社の運営です。1階は名古屋グランパスと提携したスポーツバー。

これまで工事中だった名古屋市の久屋大通公園整備事業（*注）も同時に完成、開業しましたので一帯は全く新しい空間に生まれ変わります。

（*注）名古屋市のPFI（公募設置管理制度）で整備業者を募り、三井不動産グループが選ばれた。錦通りから外堀通りまでの久屋大通公園約5万4000㎡を4ゾーンに分けて2019年1月から開発。名古屋初進出店21店を含む35の物販、飲食サービスの店と5つの広場やテラス約1万㎡が整備され「レイヤード久屋大通パーク」としてデビュー。

した。

テレビ塔のライティングも一新しました。テレビ塔には2種類のライティングがあります。一つは塔体を照らす照明、今回、名古屋市の計画により、LEDによるフルカラーになりました。もう一つは当社が60周年記念事業（2014年）に設置しましたLED1万個を使用した新しいライティングシステム「煌」をこの度さらに充実を図りました。タワーのライティングとしては日本で最も多彩な演出ができると思います。今後、栄が変わるインパクトを表現していきます。これはもともと1957年、塔体にカラーフラッシュ電球1万5000個を設置して日本初の塔体照明を行ったテレビ塔の復活です。

——コロナ禍の対応は？

大澤 いろんなイベントを準備してきていますが、コロナ禍の状況が読めず、実現できていないものも沢山あります。コロナ対応は怠らず、検温・消毒は当然ですが、運営面においても例えば展望台への入場者の皆様を時間制でご案内するなど状況に応じた適切な対応を行っていきます。また、今回の改修でそれまで5階から展望台に登る外階段が、地上から展望台まで行けるようになりました。コロナ禍でも景色をご覧いただきながら開放感を味わっていただくと考えています。

——電波塔から観光塔に生まれ変わりました。

大澤 もともと当社は名古屋財界など約100社の出資で1953年、誕生しましたが、目的は観光と宣伝。名古屋へ観光客の誘致を目的とする株式会社は名古屋地区では数少ないと思います。当時の先見性に敬意を表すと共に、原点に戻り次の時代にも十分活躍できるように時代に先駆けた活動を展開しています。